

2020 年度事業報告・決算報告の件

2020 年度 事業報告書

(2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日)

一般社団法人 日本真空工業会（以下、JVIA）は末代 政輔 会長の下で、基本方針である定款第 3 条の「(JVIA の目的は) 国民生活の向上に寄与すると共に会員の発展、繁栄と会員相互の協調を図ることを目的とする」に則って活動を行った。今年度は JVIA の長期ビジョンに基づいて策定される「アクションプラン 2021」の 2 年目に当たり、「社会的使命」と「会員の利益」の二つを機軸として、JVIA の「存在感のアップ」と「グローバル化」を具現化するべく、理事会、企画委員会、各専門委員会、ならびに関西支部を中心に活動を行った。

1. 2020 年度のトピックス

- ・コロナ禍に伴い社員総会（5 月）は書面にて開催した。
- ・賛助会員:2 社、Trial 会員:1 社、の入会があった。
(退会：正会員：1社、賛助会員：2 社)
- ・「真空ウォーキングコース」は初めての開催中止となり「はじめて真空」はオンデマンドでの配信を行った。
- ・VACUUM2020 真空展をオンライン開催にて配信を行った。
- ・「環境教育講座」はオンデマンド配信を行い、「はじめて真空」「作業標準報告会」「環境トピックス」は真空展のなかでオンデマンド配信を行った。
- ・経済産業省との連携で「中小企業等経営強化法」は税制改正に伴い 2 年間延長され「生産性向上特別措置法案」に関わる証明書発行書業務を行った。
- ・若手交流会は年間通じコロナの影響で中止となった。
- ・真空ジャーナル 9 月号に環境活動報告書 2020 を盛り込んだ。
- ・サプライヤ交流会はコロナの影響で中止となった。

2.JVIA 活動内容の詳細

1) 関西支部

- ・支部会、見学会などすべての行事計画は中止となり、関西理事会はZOOM開催、総会は書面にて終了した。

2) 企画委員会

- ・サプライヤ交流会、若手交流会 (JVIA—EAST)、身近な真空調査小委員会は活動がコロナの影響により停止状態であった。
- ・JVIA表彰制度の復活を企画し、応募を開始した、本件は5月の総会で審査結果を発表する予定。

3) 教育委員会「真空産業に関する情報の普及および啓発」

幅広い産業の基盤技術である真空技術の維持・向上を図る目的で本年度は、コロナ禍の中下記の1件の真空教育講座を実施した。

- ・第25回真空技術基礎講習会「真空ウォーキングコース」は中止となった。
 - ・真空展における「はじめて真空」の1講座をオンデマンドにて行った。
- 「はじめて真空」 聴講者数 307名 (1か月)

4) 出版委員会「真空産業に関する情報の普及および啓発」

JVIAの活動を広く会員各位および社会に公告するため、下記の広報活動が実施された。

- ・真空ジャーナルは年4回発行 (毎回: 1200部)

5) 規格標準委員会「真空機器に関する規格の立案および標準化の推進」

- ・ISO/TC112で取り扱う真空技術に係わる国際規格の整備事業を、公益社団法人 日本表面真空学会と共に「規格標準合同検討委員会」として活動を行った。
- ・2020真空展でのオンデマンド配信による「規格標準報告会」を行った。

聴講者 227名 (1か月)

- ・ISO活動関連

1)ISO/AWI 24477:2019

(仮)スピニングロータ真空計の仕様の表記法,校正方法,及び測定不確かさの評価方法

2)ISO 番号未定

(仮) NEGポンプの性能試験方法

3)ISO 番号未定

(仮) クライオポンプの性能試験方法

- ・ J I S 関連活動
 - 1) JIS 原案作成委員会 (JIS Z 8126-1 真空技術 - 用語、JIS Z 8207 真空装置用図記号)
 - 2) ナイフエッジフランジの規格の JIS 化
- 6) 技術フォーラム委員会「真空機器に関する技術開発に係わる調査研究」

産業動向の調査検討を行い、真空産業分野の新規事業開拓に関する情報提供を行うために超小型衛星が拓く新たな宇宙利用、宇宙と地上をつなぐ次世代通信（6G）に関するシンポジウムを企画したがコロナの影響によりシンポジウム開催を断念せざるを得なくなった。
- 7) 統計委員会「真空機器に関する生産・流通・及び保全等の調査研究」
 - ・ 2020 年度の統計参加会社数は 50 社で、四半期ごとに受注・売上データを集計し年間で 4 回プレスリリースを実施した。四半期毎の国際統計事業は日本（JVIA）、欧州（EVTA）、米国（AVEM）の 3 団体から真空コンポーネント製品の売上データの収集を行った。

毎年 1 回開催される国際統計会議（ISVT）は 10/29 に 3 か国同時に W E B 会議にて開催し、意見交換を行った。
- 8) 環境委員会「真空機器に関する環境に係わる調査研究」
 - ・ 会員各社に環境活動アンケートを実施し、「環境活動報告書 2020」を真空ジャーナル 9 月号に合併号として掲載した。
 - ・ 2020 オンライン真空展にて環境トピックス「初心者向け環境法令 Basic 講座」をオンデマンドにて行った。聴講者：140 名（8 日間）
 - ・ 今年度も「環境教育講座」を（一社）日本半導体製造装置協会（SEAJ）環境部会と共催で実施した。リアル o n - l i n e セミナーにて、2021 年 3 月 3 日 13 時～16 時
聴講者：約 120 名
- 9) CS 委員会「真空機器に関する安全に係わる調査研究」
 - ・ 2020 オンライン真空展にて作業安全教育講座「作業安全を見直すための講座」をオンデマンドにて行った。聴講者：140 名（1 か月）
- 10) 展示会委員会「真空産業に関する情報の普及および啓発」
 - ・ 展示会は、日刊工業新聞社がイベント運営担当を行い、洗浄産業展、先端材料技術展、高精度・難加工技術展、表面改質展と併催として、VACUUM 2020 真空展 ONLINE：10 月 14 日（水）～11 月 13 日（金）の 1 か月間開催した。
 - ・ 有料出展は 38 社・団体（2019 年は 77 社団体）と規模は減少した。

1か月間の入場者は3,388名（2019年は10,815名）と前年度比：31%となった。
コロナの影響によりONLINEとした真空展は、新しい形の展示会としての試みがなされた。
特別基調講演会は下記2講演が行われた。

- ・10/19 ライブ配信『小惑星探査機「はやぶさ2」の挑戦とその成果』聴講者数：96名
講師 吉川 真 氏（JAXA宇宙研究所 ミッションマネージャー）
- ・11/5『人類が初めて見たブラックホールの姿』聴講者数：85名
講師 本間 希樹 氏（国立天文台 水沢VLBI観測所 所長）

11) 事務局

事務所を新たに「御成門エクセレントビル」に引っ越しを行った。

新事務局長に高山紀子が就任した。

定時社員総会は書面にて開催、記念講演会、懇親会、賀詞交歓会はコロナの影響により中止とした。事務局の会議ツールとしてZOOM及びZOOMウェビナーの導入、360°WEBカメラの導入、飛沫防止パーティションスタンド10枚を購入し会議室に設備した。

公益社団法人 日本表面真空学会との協業

- ・規格標準合同検討委員会にてISO/TC112（真空技術）とJIS真空関連規格の作成活動を実施した。
- ・VACUUM2020 真空展 ONLINE を共同主催で行った。
- ・真空技術者資格認定試験は1,2級が中止となり、主任技術者試験のみを行った。

内外関係機関等との交流および協力

- ・国内関連諸団体との情報交換やセミナー等の協力共同事業として、14の団体の展示会、講演会に協賛名義許諾の発行を行った。

経済産業省産業機械課との連携

- ・「生産性向上特別措置法」は令和3年度税制改革大綱により2年間の延長が決まり係る証明書発行業務を行った、今年度の発行件数は46件あった。

Trial 会員（1年間限定のトライアル会員）

- ・Trial 会員:1社 – 日星電気の入会があった。

3. 事業報告の附属明細

1) 出版物

・「環境活動報告書 2020」－環境委員会

2) 会員移動

年度内の会員の移動は以下の通りである。

【会員数】

会員区分	20.3.31 現在	入会	退会	21.3.31 現在
正会員	51	0	1	50 社
賛助会員	51	2	2	51 社
特別会員	11	0	0	11 団体
計	113	2	3	112 社・団体

会員区分	20.3.31 現在	入会	退会	21.3.31 現在
シニア会員	14	0	0	14

【入会】 賛助会員：witzenman Japan(株)、 (株)牧野フライス製作所

【退会】 正会員：SMC(株)

賛助会員：(株)牧野フライス製作所、(株)ミスミ

※事業報告書の内容を補足すべき重要事項はありませんので附属明細書は作成しない。

以上